

うたって学ぶしまくとうば

～rainとめぐる沖縄のうた～

耳切坊主編

年 組 番 氏名

イントロコーナー

『耳切坊主（みみちりぼうじ）』ってどんな歌？

『耳切坊主（みみちりぼうじ）』は、沖縄で昔から歌われてきた有名な童謡（どうよう）のひとつ。少しだけこわ〜い歌ですが、歌詞の中には、しまくとうばがいくつも使われていて、言葉の音や言いまわしに特徴があります。このワークでは、沖縄の童謡をとおして、しまくとうばの意味や音を楽しんでいきましょう！



学習の目標



- ・うたの内容を知ろう : 『耳切坊主』がどんな伝説・ストーリーか知ろう。
- ・しまくとうばにふれよう : うたに出てくるしまくとうばの意味や音の感じを知ろう。
- ・自分の言葉で伝えよう : 学んだことや気づいたことを、文章にまとめて伝えよう。

1. うたの内容を知ろう

『耳切坊主（みみちりぼうじ）』ってどんなストーリー？

Q1. 『耳切坊主』の伝説には、どんな人が出てきたかな？



Q1. 『耳切坊主』の伝説には、どんな人が出てきたかな？

- 【解答例】黒金座主（くるかにざーすい）という僧侶、北谷王子、王、北谷王子の子孫（子どもたち）
- 【指導のポイント】・黒金座主と北谷王子の2人が中心人物であることを押さえる。
- ・黒金座主＝耳切坊主であることを確認する。

Q2. 『耳切坊主』は、どんな物語（ストーリー）かな？
お話の中で起こったことを、かんたんに3つの順番でまとめてみよう。

- ① _____
- ② _____
- ③ _____

Q2. お話の中で起こったことを、かんたんに3つの順番でまとめてみよう。

- 【解答例】① 悪い僧侶・黒金座主が、北谷王子との囲碁勝負に負けて両耳を切られた。
- ② 黒金座主は死に際に、北谷王子の男の子孫が長生きできないように呪いをかけた。
- ③ 呪いを避けるために、この歌で「泣くな」と子どもをあやすようになった。
- 【ポイント】・時系列：①悪事→②囲碁勝負で敗北・耳を切られる→③呪いをかける→④歌が生まれる
- ・3つの要素に分けることで、因果関係を整理させる。流れがつかめていればOK。

くるかにざーすい
Q3. 黒金座主は、実は「耳を切られた側」だったと知って、どう思いましたか？

Q3. 黒金座主は、実は「耳を切られた側」だったと知って、どう思いましたか？（自由記述）

- 【解答例】・最初は黒金座主が悪者だと思っていたけど、耳を切られたのはかわいそうだった。
- ・悪いことをしたから耳を切られたのは仕方ないけど、呪いをかけるのはやりすぎだった。
- 【ポイント】・「悪いことをした→罰を受けた→さらに呪いをかけた」という連鎖に注目させる。
- ・多様な意見を認め、「善悪は単純ではない」ことを考えるきっかけにする。
 - ・感情の共有時間を設け、クラス全体で多様な視点を交流させるとよい。

※耳切坊主の解説動画内に、少しだけ怖い表現がございます。事前に動画を視聴し、活用の判断をお願いします。

【留意点】

◆教材の特性

- ・少しだけ「怖い話」ですが、昔の人が子どもを守るために作った歌という文脈で扱う
- ・子守唄＝寝かしつけ歌ではなく、「泣き止ませる歌」であることを理解

◆重要な文化的背景

- ・「うふいなぐ」の風習：呪いから男の子を守るため、女の子として扱った命を守る知恵
- ・時系列の理解：①悪事→②囲碁勝負敗北→③耳を切られる→④呪いをかける→⑤歌が生まれる
- ・「耳を切られた側＝黒金座主」：加害者/被害者の二面性に気づかせる

◆しまくとうば学習のポイント

- ・音を体感させることを最優先：意味理解より先に、声に出して読む・歌う時間を確保
- ・「正解」を求めすぎない：多様な感じ方を認め、「なぜそう思ったか」の言語化を重視
- ・語句解説は段階的に：「ぐすぐす」（物を切る音）
「へいヨー」（囃子、元は「おい、なあ」）など

◆配慮が必要な場面

- ・恐怖心強い児童：聞くだけでもOKと選択肢を提示
- ・発表が苦手な児童：ペアでの発表、メモ見ながらOKなど段階的支援

2.しまくとうばにふれよう 『耳切坊主（みみちりぼうじ）』に出てくるしまくとうばの意味は？

Q1. 『耳切坊主』の歌詞をたのしみながら、声に出して歌ってみよう。

【歌詞（しまくとうば）】

うふむらうどうん じょー
大村御殿ぬ 門なかい
みみちりぼうじ た
耳切坊主ぬ 立っちょーんどー
いくたい いくたい た
幾人 幾人 立っちょーが
みっちゃい ゆったい た
三人 四人 立っちょーんどー
いらな すいーぐ む
鎌ん小刀ん持っちょーんどー
な わらべ みみ
泣ちゆる童ー 耳ぐずぐず
へいヨーへいヨー 泣くなよー
へいヨーへいヨー 泣くなよー

【現代語訳】

大村御殿の門に
耳切坊主が立っているよ。
何人、何人 立っているか？
三人、四人 立っているよ。
鎌も小刀も持っているよ。
泣く子は耳をザクザク。
泣くなよ。
泣くなよ。

Q2. しまくとうばと日本語（現代語）をくらべて、どんなところがちがうかな？
あなたが感じた音のちがいや、気づいたことを書いてみよう。

3.自分の言葉で伝えよう 学んだことや気づいたことを、文章にまとめて伝えよう！

Q1. 『耳切坊主』の中で、あなたが「おもしろい」と思ったしまくとうばはどれ？

「おもしろい」と思ったしまくとうば：_____

その理由：_____

Q2. あなたが「おもしろい」と思ったしまくとうばを、グループの人に発表しよう！
グループの人がえらんだ“おもしろい言葉”をメモしよう。

もっと調べてみよう！



- ・沖縄には、他にどんな“ちょっとこわい話（童謡や民話）”があるの？
- ・昔の沖縄の家や夜のくらしは、どんな感じだったのかな？
- ・「うふいなぐ」って今も使われているのかな？

Q1. 『耳切坊主』の歌詞をたのしみながら、声に出して歌ってみよう。

【語句解説】

- ・大村御殿（うふむらうどうん）：北谷王子の屋敷のこと。
- ・門（じょー）：門扉。「角（かどう）」ではなく「門」に立っている設定。
- ・人数の数え方：みっちゃい（三人）、ゆったい（四人）。
沖縄では人を数えるとき「ちゅい、たい、みっちゃい、ゆったい…」と数える。
ミニ知識として紹介するとよい。
- ・ぐずぐず：物を切る音。「ざくざく」「さくさく」に相当。
もう一つの意味として「咳き込む様子（ごほごほ）」もある。
- ・へいヨー：フェーシ（囃子）。意味のない音楽的な言葉で、日本民謡の「よいよい」などに相当。
元の意味は「おい、なあ」という呼びかけ。
- ・音読・歌唱を重視：リズムや繰り返しの言葉に注目させ、音の心地よさを体感させる。

Q2. しまくとうばと日本語（現代語）をくらべて、どんなところがちがうかな？（自由記述）

- 【解答例】
- ・音が繰り返される（「幾人 幾人」「へいヨーへいヨー」など）
 - ・人数の数え方が日本語と違う（みっちゃい、ゆったい）

- 【ポイント】
- ・音韻的な特徴（母音の長音化、リズム感、反復表現）に気づかせることが目標。
 - ・正解は一つではないので、児童の多様な気づきを認め、共有する時間を設ける。
 - ・「ぐずぐず」のような擬音語・擬態語の面白さにも注目させる。

Q1. 『耳切坊主』の中で、あなたが「おもしろい」と思ったしまくとうばはどれ？

- 【解答例】
- （例1）「ぐずぐず」→ 耳を切る音が聞こえてきそうで、こわいけどおもしろい。
（例2）「へいヨーへいヨー」→ 意味はないけど、リズムがあって歌いやすい。
（例3）「わらべー」→ 「子ども」という意味だと知って、かわいい響きだと思った。

- 【ポイント】
- ・「おもしろい」の基準は児童によって異なる。（音の響き、文化的な違いなど）
 - ・理由を言語化させることで、言葉への興味・関心を深める。

Q2. あなたが「おもしろい」と思ったしまくとうばを、グループの人に発表しよう！

- 【ポイント】
- ・発表活動を通じて、多様な視点に触れさせる。
 - ・「友だちの意見を聞いて、自分も同じように感じた」「自分とはちがう見方があって面白かった」など、メタ認知を促す声かけを行う。
 - ・時間があれば、クラス全体で「人気のしまくとうば」をランキング化してもよい。

総合的な指導のポイント（全体を通して）

ワークシート活用は任意とするが、動画と連動させる：動画で歌や伝説を視聴してからワークに取り組むと、理解が深まる。動画の流れ（曲紹介→1回目歌唱→物語解説→歌詞解説→2回目歌唱）に合わせて、ワークを段階的に進めるとよい。